

おかやまコープ くらしをつくる Vol.11

おかやまコープの各店舗では東日本の復興支援ポスターを掲げ、組合員に協力を呼び掛けている



東日本を襲った未曾有の大震災から1年。おかやまコープは、震災発生直後から救護物資の提供・搬送をはじめ、買い物が困難な地域から救護物資・店舗の復旧、お見舞い訪問など人的・物資支援や募金活動を精力的に行ってきた。被災地は復興に向けて歩み出したが、被災者の生活再建と被災地域の産業復興はまだ道が険しい。おかやまコープは、「いつも心はそばに」という思いとともに、息の長い支援を続け、「と力強く今後も東北産品の利用を組合員に呼び掛けたら、幅広い取り組みを行うこと。」

復興支援金を積み立て 東北産品の応援セールも

東日本大震災の被災地はいまだ厳しい状況であり、雇用をはじめ、地域経済が自立することが大切だ。その応援の一つとして、おかやまコープは被災地で生産された商品の利用積極的に進めている。

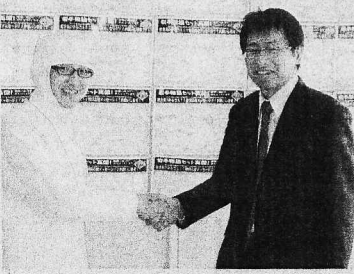
おかやまコープをはじめ全国の生協では、被災地生産されている商品や被災地の原料を使用した商品に「がんばろう東日本」のマークを付け、COOP復興応援企画対象商品として、東日本応援セールを度々実施し、組合員に購入を呼び掛けている。毛織物、福島第一原発事故による農産物が著しい福島県産リンゴなどの農産物販売なども企画している。

このほか昨年10月、岡山市で開いた食のイベント「ハッピーフードパーク」で開設された被災地の農産物や被災メーカー、いわて生協（会手県）の商品をそろえ、大勢の来場者の反響を呼んだ。

合員の協力により、積立金額は1866万9780円に上った。積立金は昨年2、3月、甚大な被害を受けた東北生協と、COOPCSネット（中国国事業連合）の商品を製造しているメーカーに見舞金として直接届けられた。この復興支援金の積み立ては4月からも継続される。

また、おかやまコープは東日本大震災が起きた3月を特別な月間と位置づけ、「忘れぬ3・11企画を展開中。全店舗に「つながろう！日本の元気」を掲げ、復興支援を呼び掛けている。

想いを届けよう！
東日本へ
1円支援
復興支援金の対象商品（宅配）はこのマークが目印



岩手県の食品メーカー（株）アマタケに2月、おかやまコープの平田昌三専務理事（右）が復興支援金を届けた。同社は大船渡市の本社・処理場が津波で壊滅状態になったが、復旧が進みつつあるという

東日本大震災から1年

現地に寄り添い 息の長い支援を継続

被災地へ 暖かさを届けよう

仮設住宅の組合員に灯油提供 2週間で募金1千万円超

東北の被災地は震災後初めての冬を迎えた。仮設住宅に暮らす人たちに厳寒の冬を暖かく乗り越えてもらおうと、おかやまコープは昨年12月、「仮設住宅灯油支援募金」を組合員に募集。わずか2週間で予想をはるかに上回る1千万円超の浄財が寄せられ、計1017万780円が灯油の無償提供に役立てられた。

この灯油支援募金は、コープ東北サソネット事業連合の要請にこたえたもので、全国からの募金によって、岩手・宮城・福島3県の応急仮設住宅に暮らす生協組合員の人たちに灯油1缶（18%）と灯油ボリ缶収納ボックスが贈られた。



感謝の声

- 「ボリ缶がなく、買いに行けなくて困っていたところに来て本当に助かっている」
- 「玄関にボリ缶を置くのが狭くて困っていたが、カギス付きのボリ缶収納ボックスを買ったので、外に置くようになった」（仮設住宅の組合員より）

国際医療ボランティア・AMDAに協力

復興への願いをカタチに

おかやまコープは国際医療ボランティア・AMDA（本部：岡山市北区伊予）と2007年に支援協定を締結（後、おかやまコープ国際協力基金（AMD A基金）を設立。災害時の緊急医療活動や開発上国の自立支援に支援金を贈るなど協力を深めており、東日本大震災でも復興支援に向けたAMD Aの活動を幅広くサポートしている。

AMD Aは昨年12月、岩手県大館市に「健康サポートセンター」（30平方メートルを開設。おかやまコープは、木製の掛け時計・案内看板を贈った。同時に、おかやまコープがAMD Aを通じて物資支援を行った。職員が



岩手県大館市にAMDAが開所した「健康サポートセンター」は住民の交流と健康・栄養プログラムを実施する拠点。掛け時計にはおかやまコープ組合員からのメッセージが刻まれている



時計には「私たちがいつもいっしょです」とのメッセージが添えられている。また被災地では、住居場所を失った震災ホームレスの人たちが増え、健康状態が危惧されている。おかやまコープは今年1月、AMDAが行った「被災ホームレス支援プログラム」へも参加呼び掛けにこたえ、カップ麺・方巻を手配した。仙台市での炊き出しも提供され、「被災者の心も体も暖まった」と喜ばれた。

スポーツ通じ深まる絆

昨年8月には早稲、宮城県の中学生46と岡山県の中学生128人によるサッカー親善交流事業が岡山市などであり、参加者は学校対抗や混成チームで交流試合に汗を流し、絆を深めた。この企画は、困った時に積極的に支援し、開かれ相互扶助の大切さを学んでもらおうとAMDAが企画。おかやまコープは「厚食やスポーツタオルなどの記念品を提供し、交流に一役買った。

おかやまコープはAMDAをはじめ、他団体との協働による取り組みを積極的に推進してきた。3月は早稲の大船渡校吹奏楽部を迎えた演奏会（種目「コンサート」）（AMD A主催、おかやまコープ共催）、ニセソウの「こころの311復興支援報告会」、岡山MCAの「復興支援チャリティコンサート」（3月16日午後6時半開演、岡山市市民会館）などに対し、食料の提供や告知協力を行っている。



サッカーで交流した岩手・宮城の中学生たち